

今年も合唱コンクール全国大会へ進出決定！



演奏後、ロビーでの集合写真

10月10日(日)、富士通川崎合唱団は、千葉県にある市川市文化会館において開催された「第65回関東合唱コンクール」に出場しました。

【合唱コンクールとは】

全日本合唱連盟が主催し、年に一度開催されるイベントで、いくつかの部門（高校部門、職場部門など）毎に、演奏を競い合います。県大会から始まり、支部大会（私たちの場合にはこの関東大会となります）で勝ち残れば、全国大会に出場することができます。

関東大会の審査結果は金／銀／銅の3つに分類されます。

今年度の私たちの演奏曲および指揮者は次の通りです。

■演奏曲

【課題曲】

《G1》Ne timeas, Maria（マリアよ 畏れるな）【作曲：Tomás Luis de Victoria】

【自由曲】

Miserere mei（あわれみたまえ）【作曲：Rihards Dubra】

Ubi Caritas（愛と慈しみのあるところ）【作曲：Rihards Dubra】

■指揮：加藤雅子

■成績

★銀賞受賞（関東代表として全国大会へ出場）

■当日の様子



第 65 回関東合唱コンクール 今年は「ようこそ千葉県へ」

かつての体育の日、晴天が多い日のはずなのに、天候は雨。早朝 7 時 20 分に千葉県の市川駅前の市川グランドホテルに集合、ホテルの宴会場で練習を行いました。今年は職場部門・一般部門に加えて大学部門も同日開催となり、いつも朝一番の出番だった職場部門は大学部門の後になったので、少し時間に余裕があります。朝はまだ体も硬く声も出ないので、無理のない発声練習と重要ポイントのおさらいをしながら、体とのどを本番向けにほぐしあたためました。

2 時間の練習を終え、雨のあがった曇り空の下、隣の本八幡駅に移動して徒歩 10 分ほどのホール「市川市文化会館」に着くと、まだロビーは閑散としていました。「富士通川崎合唱団」のプラカードを持った係員の方が現れ、いよいよ誘導開始です。更衣室で衣装に着替え、リハーサル室に移動、そこで最終リハーサルを行ってから本番となります。

誘導開始となったところ、大学部門が始まりました。大学は全部で 5 団体。子供の透き通

った歌声と、大人の熟成された歌声の間にある彼らの演奏は、非常に繊細で美しいものばかり。

ところで、ここで衣装について少し。大学生の衣装はどの団体も、女声は白ブラウスに足まですっぽり隠れる黒ロングスカート、男声は黒ジャケットに黒蝶ネクタイという、合唱の標準的な衣装でした。私たちオトナの衣装はというと、女声はステージ衣装専門店で作った真っ青なロングドレスと銀色に光るネックレス、男声の胸元には女声のドレスと同色のポケットチーフが。もちろん、見た目だけでなく歌唱でも、オトナはオトナの魅力をみせつけたいところです！



演奏前、リラックスしてプラカードと共に

さていよいよ、富士通川崎合唱団の演奏です。総勢 22 名の私たち、大学生に比べると規模は小さめ。本当は毎日練習したいけど、そうもいかない社会人。忙しい仕事の合間を縫ってみんなでハーモニーを作ってきた成果、いかに発揮できるか？

課題曲 “Ne timeas, Maria” は大学部門でも 2 団体を取り上げていましたが、どの団体も全く違う作り方。私たちは勢いのある Ne timeas です。続いて自由曲 1 曲目 “Miserere mei”、繊細で美しい和音が響きます。ドラマティックな後半部へと展開し、ラストは冒頭のテーマ再現。そして自由曲 2 曲目、“Ubi Caritas”。3 曲の中で最も長い間取り組んで

たこの曲、安定感が一段上でした。ソプラノの旋律は美しく響き、見事に演奏を締めくくりました。ところでこれらの自由曲を作曲した **Rihards Dubra** は、ラトヴィアの作曲家です。ラトヴィアの曲というのは日本ではまだまだマイナーな存在なのですが、今回の曲は非常に美しくかつドラマティックで素晴らしく聴き応えがあります。

審査結果は残念ながら銀賞でしたが、職場部門の関東代表として来たる 11 月 21 日(日)、兵庫県立芸術文化センターにて開催される全国大会に出場いたします。当団は、関東大会で銀賞だった年には全国大会の成績がよくなるというジンクスが密かにあるようです。

あと 1 ヶ月とちょっと、さらに磨きをかけて全国大会に臨みたいと思いますので、皆様、引き続き応援よろしくお願いたします。



銀賞の賞状と楯、当日のプログラム

【記事・写真提供：富士通川崎合唱団 (アルト) 横井恵美】